

「なんで、私が教員に!？」これが今の私の正直な感想です。というのも教員は目指していたものの、教員採用試験に合格できるとは思っていませんでした。今だからこそ言えますが、「自分について今のままでいいのか」「していることはあっているのか」と、様々なことで自問自答を繰り返す日々でした。その中で支えになったのは、やはり教職支援室の先生方や仲間たちでした。この素敵で素晴らしい太陽のような人たちのおかげで私は合格出来ました。私の力だけでは無理だったと思います。今も頭があがりません。改めてお世話になりました、ありがとうございました。この出会いに感謝し、支援室のみなさんからいただいたパワーや、やさしさで春からは支援室のようなクラスを作れる教員になりたいと思います!!

(大阪府／中学／国語科 国際教養学部 2024 年度卒業生)

たくさんの友人や先生方に支えられながら、大阪府の高等学校国語科に合格することができました。私は高校卒業後に一般企業に勤めた後、大学生になったため、入学当初は同級生と上手く馴染むことができるのか、とても不安でした。しかし、今となっては不安を抱いていたことが恥ずかしいくらいです。入学後、とにかくにも学ぶことは学ばないといけないと気合を入れまくっていた私は、教職だけでなく日本語教師養成プログラムも同時に履修しました。この2つを同時に履修することの苦労も多少はありましたが、教員になるために必要な知識や経験を多く学ぶことができました。合格するまでに、たくさんの方々に数えきれないほどの迷惑をかけたなど反省と感謝をしてもしきれません。たくさんの支えに応えるためにも、教員としての自覚を持ち、なりたい教員像である「生徒の自信を引き出すことができる教員」を目指して頑張りたいと思います。

(大阪府／高校／国語科 国際教養学部 2024 年度卒業生)

高校時代、何をしたいか宙ぶらりんだった私に、道を示してくれた先生からの言葉で「教師」という職業に惹かれました。しかし、大学に入学してから教師という仕事の現実と、教育の難しさを痛感し、私は大学3年の秋まで「教師にはならない」と背を向けていました。そんな私も、支援学校での実習をきっかけに「教師になりたい」と思うようになりました。教員採用試験の3年生受験もとうに終わって、3年生向けの秋のセミナーも終わっている頃です。完全に出遅れたスタートでしたが、親身に相談に乗ってくださった支援室の先生方、試験勉強や実習のしんどい時に一緒に頑張ってくれた仲間たちがいなければ私は教員になれていないと思います。心から感謝しています。春から教師になることがまだ信じられませんが、楽しみな気持ちと少しの不安を持って、目指す教師になれるように頑張っていきたいと思います。

(大阪府／高校／国語科 文学部 2025年度卒業生)

私は、生徒の良き理解者となり、生徒の努力を自信につなげられる教員になりたいという思いで、試験に挑みました。私は三年次前倒し試験を、教職支援室に通っていない時に受験し、一次試験に落ちてしまいました。そこで教職支援室の先生の授業を機に、この教職支援室に通い始めました。支援室に通ってなければ絶対に合格はできなかったと思います。支援室の先生方は、いつも優しく応援してくれて意欲を高めてくださり、より先生になりたいという思いが強まりました。試験対策はすべてが苦労の連続で、最初は何も上手くいきませんでした。それでも毎日学校の自習スペースで一日10時間は勉強しました。それくらいコツコツ積み重ねてきました。それができたのは、私が教師になりたいと本気で思っていた熱意があったからです。この努力は、私自身の大きな自信になりました。今後は生徒一人ひとりの努力を認め、その頑張りが自信へとつながるよう、全力で支えていきたいです。

(大阪府／中学／社会科 経済学部 2025年度卒業生)

私は、中学時代の担任の先生に憧れ、教員を志しました。早期から挑戦する意思は固まっていたものの、学習には苦戦の連続でした。特に、私たちの学年から始まった「三年生前倒し受験」は準備期間が短く、教採セミナーでの過去問の正答率の低さに「絶対に受からない」と精神的に追い込まれた時期もありました。しかし、教職支援室の先生方は最後まで諦めずにサポートし続けて下さり、同期のみんなも同じ目標に向かって一緒に走り抜けてくれました。共に頑張る仲間存在はとても大きかったですし、そんな仲間と出会わせてくれた教職支援室という存在にとっても感謝しています。この2年間で、教員採用試験とは個人戦ではなく、教職支援室のメンバー全員で挑む団体戦であると強く感じましたし、大学の中に居場所だと思える場所があることのありがたさを知りました。本当にありがとうございました。

(大阪府／中学／国語科 文学部 2025年度卒業生)

私が「教員になる！」と自信をもって言えるようになったのは大学4年生の教育実習期間中でした。入学してから教員になりたいと漠然と考えていましたが、「自分がなれるのか?」「向いていない」「学力不足」などの不安ばかり考えてしまい、「絶対になりたい」という強い気持ちを持たずにいました。そんな私が「教師になる」と自信を持てるようになり、合格できたのは、親身になってご指導をしてくださった支援室の先生方や教育実習で関わった先生からのサポート、そして生徒からの言葉が大きかったです。自信がなく不安な気持ちもありますが迷った時こそ目指した理由や初心を思い出してほしいです。自分が教員になるということがまだ信じられないですが、応援してくださった方々の言葉や目指した理由を思い出して精進していきます。

(兵庫県／高校／商業科 経営学部 2025年度卒業生)